

こぶしだより

令和８年10月30日（金）
武蔵野市立桜野小学校
特別支援教室拠点校
校　長　　谷川　拓也
11月号

保護者面談へのご協力ありがとうございました

朝晩の冷え込みが感じられるようになり、秋も深まってきました。先日は、ご多用の中、保護者面談にご協力いただき、ありがとうございました。

面談では、こぶし教室での様子をお伝えするとともに、在籍学級やご家庭でのお子様の様子についても共有させていただきました。それぞれの場面でのお子様の姿を共有することで、お子様の成長や現在抱えている困難さについて改めて考える機会となりました。今回の面談で共有した内容を今後の指導にも生かし、一人一人のよさを認め、成長を支えていきたいと思います。

また、10月17日には運動会がありました。子供たち一人一人が、それぞれの目標に向かって取り組む姿が見られました。練習期間中には、普段とは異なる時間割や集団での活動、繰り返しの練習などに、疲れや不安を感じることもあったと思います。そのような中でも、苦手なことに挑戦したこと、気持ちを切り替えて参加したこと、周囲を見ながら行動したこと、自分の気持ちや状況に合わせて、自分なりの参加方法を考えたことなど、一人一人の頑張りや成長が様々な場面に表れていました。こうした経験を「自分もできた」という自信につなげられるよう、今後の支援にも生かしていきたいと思います。

今後も開校30周年記念行事や音楽会などの行事が予定されています。こぶし教室でも、子供たちの気持ちや体調の変化に心を配りながら、安心して学校生活を送ることができるよう、在籍学級やご家庭と連携して支援していきます。

11月・12月の行事予定

11月30日(月)	桜野小学校音楽会振替休業日
12月16日(水)	２学期こぶし教室指導終了
12月18日(金)	こぶし教室保護者懇談会
12月25日(金)	終業式
12月26日(土)	冬季休業開始

「一緒にできた！」が育む、子供たちの成長

～研究授業・講師講演会のご報告とご家庭でのヒント～



10月１日（木）、こぶし教室では、「自己決定」できる「自立した学習者」の育成～自分のよさに気付き、生かせるようにする指導を通して～を主題に２名の小集団で研究授業を行いました。授業では、「絶壁スライダー」という教材を使い、ボールをゴールまで運ぶことを目指して、２人でコースを作る活動に取り組みました。試行錯誤を繰り返しながら諦めずに挑戦したり、友達に声を掛けたりする姿が見られました。

授業後には、江戸川区教育相談センターの有澤直人先生を講師に迎え、子供たちの発達段階に応じた人との関わり方や、協力する力を育むための支援について学びました。今回は、有澤先生のお話の中から、ご家庭でも生かせる内容をご紹介します。

★ 「協力」の前に大切な「気持ちの共有」

有澤先生からは、「友達と同じ活動をすること」と「友達と協力すること」は必ずしも同じではないというお話がありました。例えば、２人でゲームをクリアして喜んでいても、お互いに相手の存在を意識していなければ、「一緒にできてうれしい」という気持ちの共有にはつながりにくいことがあります。まずは、誰かと一緒に笑ったり、成功を喜び合ったりする経験を積み重ねることが、相手の気持ちに目を向け、協力する力を育む土台になります。「協力する力」と聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、家庭内のちょっとした工夫や言葉掛けからスタートできます。



◆ ご家庭で生かせる！関わり方

● 「できたね！」から「一緒にできたね！」へ

家族で料理をしたり、パズルを完成させたりしたときには、「できたね！」に加えて、「一緒に作れて楽しかったね。」「手伝ってくれてうれしかったよ。」と気持ちを添えて伝えてみるのも一つの方法です。自分の達成感だけでなく、誰かと一緒に取り組んだ喜びにも目を向けるきっかけになります。

● 「協力してくれてありがとう！」よりも、協力を実感できる経験を

例えば、大きなシーツを家族で一緒に畳んだり、少し大きな荷物を２人で運んだりする活動では、一人では難しいことも、力を合わせることでできる経験が生まれます。このような活動の機会をもち、「みんなで息を合わせられたから、ピシッとキレイにたためたね。」や、「一緒に持ってくれたから運べたね。」など、具体的に伝えることで、協力することの意味を実感しやすくなります。



今回の研究授業と講演会を通して、子供たちに目標となる行動を求めるだけでなく、その土台となる経験を丁寧に積み重ねることの大切さを学びました。こぶし教室でも、一人一人の得意なことや取り組むペースを大切にしながら、自分のよさに気付き、友達と関わる楽しさを感じられる活動を工夫していきます。